

団 体 名	東大跡パラスポーツの会
事 業 名 称	「東大跡パラスポーツの会」の組織強化
補 助 金 額	164,000円
現 場 確 認 日	平成30年9月5日（水）
出 席 委 員	豊田委員



事業の概要

一般町民及び障がい者のパラスポーツボランティアに対する関心と理解を広める機会を作り、ボランティア数と奉仕活動の増加を図る。

県を初めとする外部研修講座に健常者、障がい者の出席を促進し、知識、スキルの向上を図る。

現場確認の内容

東大果樹園跡地にて開催されたパラスポーツ活動を見学しました。

27名が参加され、フライングディスク（空飛ぶ円盤）、ソフトボール投げ、ジャベリックスロー（軽いやり投げ）、サッカーの練習をしていました。

そこには、一緒にパラスポーツを楽しんでいる空間がありました。

活動2年目を迎え、近隣市町の団体と連携したり、小学校に出向いたり、児童とともにパラスポーツを一緒に楽しむ活動も始まっています。

出席委員のコメント

- ・ソフトボール投げとフットサル、フライングディスク、やり投げに似た種目のジャベリックスローで参加者が和気あいあいと体を動かしていました。ジャベリックスローで好記録を出した参加者がボランティアとハイタッチをして、ともに楽しんでいる姿は、ほほえましく感じました。お子さん1名が加わり、車椅子で見学する方もいて、パラスポーツに興味のある人なら誰でも気軽に参加できる雰囲気がありました。
- ・毎回、スコアカードに記録をつけ、県大会にも参加しているようで、障がいのある人が目標や参加意欲を持ってパラスポーツに取り組めるように工夫がされていました。
- ・近隣市町のパラスポーツ団体と連携を図っている様子や、コミュニティ放送局の取材を受けて活動を広く知ってもらおうとPRに積極的な姿勢がうかがえました。
- ・補助金でひと通りの用具を揃え、パラスポーツ指導員を充実させた後は、活動がさらに発展することを期待します。ボランティアの増員が課題とのこと。活動が平日の月1回なので、参加者が固定化しないよう、学校の長期休みに合わせて年に1回でも土日を実施日を設けてより多くの人が障がい者と交流したり、パラスポーツに親しんだり、ボランティア活動に参加する機会を作ってほしいと思います。同会の活動は「ともに生きる社会かながわ」の実現に向けた取り組みの実践例であるといえます。

団 体 名	にのみや子ども自然塾
事 業 名 称	子どもたちの遊びの活動のための組織基盤の強化
補 助 金 額	200,000円
現 場 確 認 日	平成30年9月8日（土）
出 席 委 員	齋藤委員



事業の概要

二宮町に、自然豊かなのびのびとした子どもの遊び場を創る活動を更に充実した活動として継続していくために、組織の基盤強化を図る。

現場確認の内容

自然豊かな広い場所で、子どもたちが自由に、やりたいことをやってみるということをテーマにした「冒険遊び場」を見学しました。

大きな紙や段ボールに自由に描く「絵の具遊び」と「泥遊び」を主体で開催していました。

10時から開催されていましたが、時間を追うごとに人数は増え、昼ごろには約30人に達していました。

人数が増えると木工遊びなどの準備し、現場の状況にあわせた開催内容となっていました。

遊びに来ている子どもは就学前児童が多く、就学児童の参加は少ない状況でした。



出席委員のコメント

- ・思いのほか、広い敷地です。
- ・グラウンド入口の僅かな場所を除き、夏草が茫々と生い茂っていました。
- ・案内していただいた町職員の方の話ではイノシシや蛇もいるそうです。子供たちの元気な声があれば、そんな動物も現れることはないでしょうが。
- ・代表の三宅さんのお話では、町からの補助金は日除けテントや木工用具の購入などに有効に使っているとのこと、今年のような猛暑では大いに役立ったことと思います。
- ・今回は木工用具などを使う場面はありませんでしたが、手作りの竹馬などで遊ぶ子供たちもいました。
- ・集まっていた子供たちの年齢層は未就学児が殆どだったようです。絵の具での落書き遊び、泥遊びが主体でした。おかあさんからは「ダイナミックな遊び」という評価もあるようですが、田舎で育った私の印象は一寸物足りないものでした。それは主催者の問題ではなく、今の子供たちの置かれた環境にあるようです。
- ・小学生になれば、習い事が増え、その習い事も親が送迎出来る土日に集中する。したがって就学時の参加は少ないようです。
- ・いずれにしても遊び場がなかなか見つけられない子供たちにとっても、その親たちにとってもこのような活動は意義あるものとなっているようです。

団 体 名	にのみや子ども自然塾
事 業 名 称	子どもたちの遊びの活動のための組織基盤の強化
補 助 金 額	200,000円
現 場 確 認 日	平成30年10月23日(火)
出 席 委 員	岡本委員



事業の概要

二宮町に、自然豊かなのびのびとした子どもの遊び場を創る活動を更に充実した活動として継続していくために、組織の基盤強化を図る。

現場確認の内容

0歳から就学前のお子さんとお母さん・お父さんが、自然豊かな野外で遊びながら過ごす場をテーマにした「さとっこ」を見学しました。

「泥遊び」や「ボール転がし」、「段ボール遊び」など子どもたちが様々な遊びをしていました。

10時から開催されていましたが、町内外合わせて22組の親子が参加していました。

昼には焼芋や鍋を作っており、親子がのんびり過ごせる開催内容となっていました。

遊びに来ている子どもは就学前児童が多く、就学児童の参加は少ない状況でした。

就学前児童を遊ばせる場所が少ない中、親子でのんびり過ごせる場所となっています。

出席委員のコメント

- ・自然とふれ合う機会が減った今、大磯からの子ども達も一緒になって「遊びたい」、「遊ばせたい」との想いが実現できる場所だと感じました。
- ・人気は泥んこあそび。手で泥をこねたり、足で図を描いたりしていました。ジャンプして泥が飛び散るのを楽しんでいるようでした。服の上から泥遊び専用のカバーを着ている子もいました。泥まみれの我が子の姿にお母さんたちは平気な様子でした。
- ・山の斜面の片隅にそうめん流し用の長い竹が置いてありました。やっと歩けるようになった子も混じり、何度も何度もボールを転がしていました。「キャキャ」と身体中から出る声にも私も一緒に笑っていました。
- ・お楽しみは、持ちより野菜で作った鍋、焼芋、身も心も温まりそうでした。
- ・自然塾の中で五感を使って挑戦し、失敗を重ねて遊ぶという経験が蓄積されて次への冒険遊び、探検ごっこなどに繋がると実感いたしました。
- ・今後の継続や、充実、設備の追加、理解ある人たちへの広報活動、山積みの課題に挑戦したいとの力強い思いをお聞きすることができました。

団 体 名	にのみや地域ねこの会
事 業 名 称	にのみや地域ねこ対策
補 助 金 額	50,000円
現 場 確 認 日	平成30年10月24日(水)
出 席 委 員	山岡委員



事業の概要

飼い主のいない猫を減らす活動を行うことにより、地球の環境改善を図る。

- ① 飼い主のいない猫の不妊去勢手術
- ② 糞尿の片づけ
- ③ 適切に餌を与え、食べこぼしや餌場の清掃を行う
- ④ 猫の里親探しを行う
- ⑤ 室内飼育の徹底の呼びかけ、促進



現場確認の内容

動物病院にて、去勢手術行っている猫の状況を整理したカルテ及び「チャと仲間たち」という活動内容を周知する本により、活動内容を確認しました。

その後、「野良猫」ではなく「地域ねこ」として飼われている2匹の猫の紹介を受け、地域の方の生きがいにもつながっていることを確認しました。

出席委員のコメント

- ・地域ねこの状態を把握するためのカルテを作成し、親子関係からその後の状況まで、丁寧に把握、管理されていることが分かりました。
- ・また、地域猫に対する住民の理解には温度差があり、理解者、協力者を得ることの難しさを感じました。
- ・動物病院でお話を聞いた後、周辺地域の猫の状況を観察させていただきました。協力者の庭に人懐っこく寄ってくる猫が、かつては人を警戒していて寄り付かなかったと聞き、人の関わり方で動物の行動が変わることを改めて理解しました。
- ・とても重要な活動であり、また、会の活動も着実に進んでいることが分かりました。
- ・他方、活動に関わる人の持ち出し(避妊のための経費、労力)があまりにも大きく、このままの形で持続していくことは困難ではないかとも感じました。
- ・町民活動として担う部分と仕組みの中で解決していくことの役割分担が必要だと感じます。

団 体 名	まちづくり工房「しお風」
事 業 名 称	吾妻山、旧山川方夫邸、東大二宮果樹園跡地等をつなぐ「まちなか♥遊学文化づくり」
補 助 金 額	128,888円
現 場 確 認 日	平成30年11月24日（土）
出 席 委 員	伊達委員



事業の概要

昔から培われてきた二宮の生活文化やアカデミックな風土を失うことなく、住民が地域の光を掘り起こし、「二宮の魅力を伝える力」を育み、二宮の魅力（地域の光）をまちなかで楽しく見える形にして文化として感じる場づくりを行い、来町者が地元の人たちとふれあい、二宮を愛する人（ファン）を増やし、二宮の求心力を増す。



現場確認の内容

walkwalk 地域体験ツアー 湘南の残したい資産 湘南みかんのある暮らしの見学をしました。

二宮駅北口を出発し、湘南軽便鉄道本社跡や吉田屋を見学したあと、みかん収穫体験、自然農法ぼんぼこファーム、東大果樹園跡地の見学をしました。

各観光スポットの歴史や現在の状況などを説明しながら歩き、二宮町の資産や歴史を情報発信するツアーとなっていました。

出席委員のコメント

- ・20名ほど参加したが、県外からの人を含めて、ほとんどが町外の人たちでした。
- ・さまざまな町への散策経験の豊富な参加者が多かったようでした。
- ・吾妻山の菜の花以外の二宮の自然や歴史遺産に初めて触れ、この町についての認識を深め、新たな魅力を発見したようでした。
- ・みなさん、多彩な見学箇所と、鶴巻田横穴墓群の裏の高台から見る雪に覆われ美しい富士山と静かな海、里山などの風景を熱心にメモに取り、写真に収めていました。
- ・特に、無農薬、微生物で育てる自然農法を実践している方のお話に耳を傾け、採れたての野菜を味も堪能していました。また、もぎたての蜜柑と地元のお弁当に満足したようで、昼食時からはじめて出会った人同士の会話が弾んでいました。
- ・なお、東大果樹園跡地にある数棟の大正から昭和初期の建造物への関心は高く、現状でのあまり手入れがされずに朽ちていく姿を惜しみ、なんとか保存できないものか、との声が聞こえました。
- ・20数ページにわたる詳細なテキストも好評でした。作るにあたっては、今日までの地道な活動の集積があったからこそだと思います。
- ・今後とも、町内外の人に対し、二宮の魅力を発信し続けて欲しいものです。